

令和7年度 第6回千歳市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時 令和8年2月26日(木) 13時30分～15時00分

会 場 議会棟大会議室

出席者 品田会長、小林副会長、森委員、土田委員、佐々木委員、高本委員、新保委員、
吉田委員(代理:天野様)、横岡委員、五十嵐委員、藤村委員、藤本委員、浜委員、
荃津委員、立田委員、立花委員、沼田委員、門間委員、清水委員(代理:石戸谷
様)、佐藤委員、杉村委員

欠席委員 金山委員、山北委員、小田委員、杉浦委員、藤吉委員、押川委員、笹森委員

事務局 米澤企画部次長 交通政策課 松本課長、飯田交通政策係長、
遠藤主査(バス路線担当)、小澤主任、木津主任

傍聴者 1名(随行者:道南バス)

報 道 北海道新聞 加藤記者

【次 第】

- 1 開 会
- 2 報告事項
- 3 協議事項
- 4 その他
- 5 閉 会

【協議結果】

- ・報告事項(1)～(2)について、承認された。
- ・協議事項(1)～(2)について、承認された。

【会議要旨】

報告事項

(1) 路線バスの利用状況

(委員)

市内路線バス利用者の推移について、1ページ目の下段では昨年の冬期調査と比較して「ほぼ横ばいである」と表現されているが、2ページ目の資料では「増加傾向」とある。1日あたりの利用者は5,284人で同数であるが、この表現の違いについては何か理由があるのか。

(事務局)

1ページ目については、過去からの利用者推移を比較したグラフとしており、過去からの傾向として、横ばいで推移しているためこの表現としている。2ページ目については、路線ごとの利用者数等を細かく表にしているが、昨年の冬期調査との単年比較した場合については、増

加傾向であることから、この表現としている。

(会長)

2 ページ目の表について補足させていただきたい。便数については、昨年と比較して減便となっているものの、便当たり利用者は、全体として増加していることがこの表から伺える。このことから、実際に運行している1便あたりの乗車密度は増加し、一定程度は路線バス利用者が戻ってきているのではないかと、ということが読み取れる結果となっている。この表の見方については、少し分かりづらいかもしれないが、こうした事務局の意図も汲み取っていただけると幸いである。

(委員)

5 ページ目、新千歳空港における乗車人数について、「昨年の冬期調査と比較すると減便の影響を受け、利用者が5.2%減少している」とのことであったが、便数自体は5%も減便しているわけではないので、利用者が減少している要因については、必ずしも減便したことだけが要因ではないと考える。

1日の調査であるため、調査日によっては結果に差が生じるものと思うが、例えば天候の影響など利用者が減少している要因は他にもあるのではないかと。減便だけの影響という、この表現で締めくくるには無理があるかと考えるが、市としてはどのようにお考えか。

(事務局)

ご指摘のとおり、1日の調査であるため、様々な条件により利用人数が変わるということとは認識している。事務局としては、昨年から減便していることは事実であり、これによるところが大きいのではないかと捉えており、このような表現とした。

この部分については、「減便などの影響を受け～」という表現に修正させていただく。

(2) AI オンデマンド交通実証実験及び自動運転バス実証実験における実施報告

(委員)

自動運転について、雪の影響などにより運行に際し、大幅な遅れなどはあったのか。

(事務局)

冬期間の運行となるため、遅れる可能性も考慮し、予め余裕のあるダイヤを設定しており、大幅な遅れなどはなかった。1月中旬に大雪の日があったが、自動運転自体は問題なく運行出来ていた。

(委員)

AI オンデマンド交通については、9ページにあるように町内会からは厳しい意見があったようだが、ポジティブな意見や要素はなかったのか。

(事務局)

最終的にはオンデマンド交通の実現には至らなかったものの、バス事業者様のご協力もあり、4月からは日本航空大学校まで路線を延長していただけるなど、この実証実験の中で副次的に得られた効果もある。こうした観点から、向陽台地区における交通の利便性向上を図ることが出来たというのはポジティブに捉えている。

今回の実証実験を経て技術的な実績が蓄積し、万が一、バス路線が維持できない状況となった場合には、この経験を生かすことができるものと考えている。本市としても行政区域が広いため、向陽台地区に限らず、他の地域において課題が出たときに、こうした事例を活用していきたいと考えている。

協議事項

(1) 市内バス路線について

(事務局より資料3に基づき説明)

(委員)

参考資料について、非常に見やすく理解しやすかったので、この資料を是非市のホームページや広報誌に掲載し市民に対して周知していただきたい。

(事務局)

本日の資料については、開催結果とともに市ホームページでの掲載を予定しており、このほかにも市公式LINE等を活用し、情報発信してまいりたいと考えている。また、学生の皆さまにも路線バスを積極的にご利用いただきたいと考えているので、学生向けにも分かりやすい資料を作成する予定である。

広報誌での周知については、紙面も限られていることから情報掲載の仕方を含め庁内で検討させていただく。

(委員)

5ページ目、空港線の便数の推移について、令和5年度は運転手不足により減便し、対前年比で7便減となっているが、減便した路線別内訳などがあればお示しいただきたい。

また、当社においても、この時期に減便を行っているが、当社の場合は、「運転手不足」ではなく「2024年問題」によるところが大きな要因である。事業者としても、便数を減らすということは、お客様にご迷惑をかけることになるため、苦渋の判断のうえ決定しており、「運転手不足」という言葉が一人歩きしてしまっているので、「運転手不足」という限定的な表現は少し違うのではないかと感じた。

次に、8ページ目、市民からの意見について、これら意見の収集方法、そして意見に対する市としてのアプローチの有無について伺う。私ども運行事業者としても、事業を運営するにあたり、お客様の意見は貴重であり、全て取り切れていない部分もあるため、バスに関する市民意見が他にもあれば、事業者にもフィードバックしていただきたい。

(事務局)

令和5年度における減便した路線別内訳については、後日報告させていただく。

また、減便となった要因について、ご指摘のとおり、2024年問題に伴う減便も含まれているため、資料中の表現については、「運転手不足や2024年問題などにより減便」という表現に修正させていただく。

市民意見の収集方法については、市が実施する市民アンケートや日頃市民の方から寄せられる意見を一部抜粋している。意見に対する市のアプローチとしては、今回新設する美々空港線の実現により、お応えできるものと考えている。キャッシュレス化については、市としても引き続き検討してまいりたい。

バス事業者皆さまのご協力もあり、夜間における増便も対応いただき、感謝申し上げます。引き続き、市民の声にお応えできるよう、利便性、採算性を考えながら協議させていただきたい。

(委員)

地域に住む住民として、市民病院プール線を運行継続していただけることは非常にありがたいと感じる一方で、この路線の年間利用状況から1日当たりの利用者数を逆算すると、1日10名にも満たない乗降人数となる。朝夕の通勤・通学時間帯は混雑するかもしれないが、それほど多くない利用状況であれば、向陽台地区で実施したようなAIオンデマンド交通の検討はされなかったのか。オンデマンド交通にどれほどの経費がかかり、事業者としてもどれほどの負担がかかるのかが分からないまま申し上げているが、せっかくノウハウが蓄積されたのであれば、他地域で横展開してみてはいかがか。

(事務局)

AIオンデマンド交通については、運転手や車両はもちろんのこと、これらを集約するシステム管理、予約を受け付けるためのコールセンター設置に係る人件費などが必要であり、路線バスと比べると多額の費用がかかるのが現状である。このため、採算性、効率性の良い交通手段を考えたときに、第一に路線バスが当てはまる。市としても、引き続き、情報収集を行い、まずは市民の足を確保することについて、しっかり対応してまいりたい。

(会長)

他に意見、ご質問があれば発言願いたい。(特になし)

特になければ、協議事項(1)「市内バス路線」については、協議済みとしてよろしいか。

(一同：意義なし。)

(2) 令和8年度事業計画(案)及び予算(案)

(副会長)

参考までにGTFSとは何か。

(事務局)

GTFS とは General Transit Feed Specification の略で、バス事業者と経路検索等の情報利用者との情報の受渡しを行うための共通フォーマットである。

(委員)

私どもの町内会からも要望があったのだが、シルバーおでかけパスの利用可能時間帯が 10 時から 16 時までとなっているが、これを 17 時までで延長していただくなど、時間変更は難しいのか。

(事務局)

シルバーおでかけパスについては、もともと日中のバス利用が少ない時間帯（10 時から 16 時）にバスに乗っていただくことを目的とし導入した制度であり、通勤通学時間帯については、バスが混み合うため、時間拡大は難しいものと考えている。このことに加え、導入した当時は、75 歳以上の方の外出機会が少ないという調査結果もあり、バス利用が少ない時間帯に路線バスの利用を促すために導入した経過がある。

また、バス運賃を導入当時の 100 円とすることについては、バス事業者にとっても運賃収入が減少することとなり、バス利用者が少ない時間であればとご理解いただいた上で、開始した制度である。いただいたご意見については、引き続き、研究してまいりたい。

(会長)

他に意見、ご質問があれば発言願いたい。（特になし）

特になければ、協議事項（2）令和 8 年度事業計画（案）及び予算（案）については、協議済みとしてよろしいか。

（一同：意義なし。）

その他

(会長)

全体を通して他にご意見、ご質問があれば発言願いたい。（特になし）

円滑な進行にご協力をいただき感謝申し上げます。それでは、事務局に進行をお返しする。

(事務局)

次回の開催については、年度をまたぎ令和 8 年度に開催を予定しており、詳細については改めて連絡させていただく。以上をもって、本日の会議を終了する。

以 上